

在上海東亞同文書院調查（第十二輯）

中國經濟全書

東亞同文會發行

中國經濟全書 (全十二冊)

著者：東亞同文會

發行所：南天書局有限公司

登記證字號：行政院新聞局局版臺業字第一四三六號

出版者：南天書局有限公司

台北市羅斯福路三段二八三巷14弄14號

電話 (Tel) : (02) 2661-0190

傳真 (Fax) : (02) 2661-3334

郵政劃撥帳戶：010805318號

印刷者：國順印刷有限公司

板橋市中正路二一六巷2弄13號

中華民國七十八年三月影印

SOUTHERN MATERIALS CENTER, INC.

P. O. Box 13-342 Taipei, Republic of China.

中國經濟全書卷頭語

中國社會經濟史學之研究自一九三〇年以後即日趨發達，至第二次世界大戰結束後更有蓬勃之進展。尤其在東亞國際體制變動的國際環境下，中國的經濟發展問題備受矚目，近代中國社會經濟的調查研究，亦成爲學術研究重要之領域。無論是社會學或經濟史學的研究，俱仰賴於豐富的資料。

邇來，各地舊刊方志分別重刊，提供了豐富而詳盡的資料，但卷帙浩繁且良窳不齊，實爲美中不足。除此之外，中文方面的資料缺少有系統的全面的調查資料。

外文方面有兩種資料彌足珍貴：一是 Royal Asiatic Society 編纂的 *Journal of the North China Branch of the Royal Asiatic Society* 1858~1948 (Shanghai, Nendeln, Krans Rept. Ltd. 1967~1969)。

七三卷；一是日本滿鐵調查部出版的『滿鐵調查月報』（一九一九—一九四四年）二四卷。兩者均屬調查報告，採論文形式，內容以專題居多。

至於中國社會經濟的全面性調查報告，則仍推東亞同文會編輯的『中國經濟全書』與『中國省別全誌』爲最重要。

東亞同文會接受日本政府的巨額補助，從事「對華文化事業」，對中國社會經濟學作詳盡的調查報告，作爲日本經略中國之用，有違其設立之初所標榜「保全中國」、增進中日兩國友好關係的宗旨，但就學術觀點言，資料之豐富，頗具參考價值，迄仍爲研究中國社會、經濟等的重要寶藏。

『中國經濟全書』共十二卷，內容廣泛而詳實，舉凡財政制度、市場經濟、工商慣例、企業組織、國內外貿易等，均有詳盡之記述，可說是一套包羅萬象的經濟叢書。

總之，其內容豐富，牽涉到經濟各層面，故本叢書之再版，必能嘉惠士林，不僅治經濟史學者所必備，即社會學、中國近代史等之研究，亦裨益良多，誠爲近代中國經濟研究最佳叢書之一，爰綴數言以爲介。

中央研究院近代史研究所研究員 林明德

支那經濟全書推薦の辞

一九三〇年代から目立って發達してきた中国社会經濟史學の研究は、第二次大戰後格段の進歩を遂げつつある。とくに東アジア國際体制の変動という國際環境の下で、近代中国の社会經濟の調査研究は、今や學術研究の重要な分野を占めるに至った。社会学あるいは經濟史學の研究にとって、最も重要なことは、資料の蒐集であることはいうまでもない。

ここ数年来、清代及び民国の地方志が相前後して覆刻された。これらの膨大な資料は確かに豊富な史料を提供しているが、その内容はまちまちであり、更に佚書の多いのが惜しまれる。ましてこれ以外には、中国文の系統的な資料集類は見当らない。しかし、調査報告に関しては、なんといつても東亜同文会の編纂による二大シリーズ——「支那經濟全書」全十二卷および「支那省別全誌」全十八卷は斯界の白眉ということができる。

東亜同文会は、「対華文化事業」の一環として、日本の対華政策に加担し、対清経営の宝典となすことを期して調査編纂に当たってきた。しかし、学術的立場からいえば、これら調査報告は、近代中国社会經濟の貴重な資料を提供しており、社会經濟史の研究にとっては、不可欠の資料といえる。

本シリーズは、近代中国の社会經濟全般にわたり、詳しい調査研究に基いて編纂されたもので、その内要は実に広汎で、財政制度、市場經濟、工業、商業から企業組織に至るまで巨細もらさず豊富に含んでいる。利用価値の高い資料集であることは明らかである。今回、「支那經濟全書」の覆刻出版がなされることを喜び、これらが近代中国史研究ならびに經濟史学等の各方面の研究の一層進展に必ずや貢献する所多大のことを確信して、ここに推薦する次第である。

中央研究院近代史研究所研究員 林 明 徳

支那經濟全書第十二輯目次

第一編 製紙業

第一章 總說	一
第一節 世界ニ於ケル生絲ノ需要及供給	一
第二節 支那ニ於ケル蠶絲業	四
第三節 支那生絲ノ輸出貿易	一〇
第二章 支那ニ於ケル生絲ノ種類	二〇
第三章 支那生絲品位及價格	二三
第四章 機械絲ノ製造	二八
第一節 絲廠及其組織	二八
第二節 製絲場ノ設備	三三
第三節 製紙工場使用人	三五
第四節 製絲工女	三九
第五節 製絲場ノ貸貸借	四七

第五章 機械絲製造原料ノ收集 五三

第一節 上海附近ノ繭產地 五三

第二節 繭行 五七

第三節 繭行ノ設備 六三

第四節 繭行ノ使用人 六八

第五節 鮮繭收買ノ方法 七一

第六節 乾繭運致ノ方法 七七

第六章 座繰絲ノ製造及產地 八四

第一節 座繰絲ノ取引高 八四

第二節 座繰絲ノ製造 八六

第三節 内地地方座繰絲產出ノ狀況 九一

第七章 生絲ノ賣買慣習 九六

第一節 支那生絲ノ生産順序 九七

第二節 内地ニ於ケル生絲ノ賣買ノ絲行 一〇〇

第三節 上海ニ於ケル生絲ノ取引ノ絲棧、絲樓、外國商館取引ノ順序 一一一

第四節 荷造法	一二五
---------	-----

第五節 商標及商標ノ貸借	一二六
--------------	-----

第二編 絹織物	一三七
---------	-----

第一章 總論	一三七
--------	-----

第二章 貿易及消費	一五六
-----------	-----

第一節 貿易ノ大勢	一五六
-----------	-----

第二節 上海	一五八
--------	-----

第一款 外國品輸入額	一五八
------------	-----

第二款 外國品ノ種類品質	一六二
--------------	-----

第三款 內國品輸入額	一六五
------------	-----

第四款 內國品ノ種類及產地	一六六
---------------	-----

第五款 上海ヨリ外國及內國ヘノ輸出	一六九
-------------------	-----

第六款 内外取扱商人	一七三
------------	-----

第七款 商業慣習	一七六
----------	-----

第一項 外商ト支那商トノ取引方法……………一七六

第二項 支那商人間ノ取引方法……………一八四

第三項 運送方法及運賃……………一八七

第四項 價格……………一九〇

第八款 同業組合……………一九四

第三節 漢 口……………一九九

第一款 外國品輸入額……………一九九

第二款 日本品ノ缺點……………二〇一

第三款 內國品輸入額、種類、產地及價格……………二〇六

第四款 取扱商店及運送方法……………二一六

第五款 賣買慣習……………二二二

第六款 公所……………二二三

第四節 天 津……………二二四

第一款 外國品輸入額及種類……………二二四

第二款 內國品輸入額、種類及產地……………二二七

第三款	小賣商店及相場	二二二
-----	---------	-----

第四款	販路區域	二三四
-----	------	-----

第五款	賣買慣習(附門市章程)	二三六
-----	-------------	-----

第三章	絹織物製產地ノ狀況	二四八
-----	-----------	-----

第一節	蘇州	二四八
-----	----	-----

第一款	織物業ノ狀況	二四八
-----	--------	-----

第二款	製織原料	二五一
-----	------	-----

第三款	種類及價格	二五二
-----	-------	-----

第四款	流行及用途	二五五
-----	-------	-----

第五款	製產組織	二五七
-----	------	-----

第六款	商店ノ種類及組織	二六八
-----	----------	-----

第七款	仕向地及嗜好	二七二
-----	--------	-----

第八款	商業慣例	二七三
-----	------	-----

第一項	取引慣習	二七三
-----	------	-----

第二項	度量衡、貨幣及金融機關	二七五
-----	-------------	-----

第三項 荷運法及運輸	二七七
第九款 同業組合	二七九
第二節 湖州	二八二
第一款 織物業ノ狀況	二八二
第二款 製産組織	二八三
第一項 機業家ノ狀態	二八三
第二項 製織工程	二八四
第三項 意匠及紋業	二八六
第三款 取引及運輸	二八六
第三節 鎮江	二八七
第四節 杭州	二八八
第一款 織物業ノ狀況	二八八
第二款 原料ノ產地	二九一
第三款 種類、用途及價格	二九二
第四款 製産組織	二九七

第一項	機業家ノ狀態	二九七
第二項	製織法ノ一斑	二九九
第五款	商店ノ組織	三〇六
第六款	商業慣例	三〇九
第一項	取引慣習	三〇九
第二項	金融機關及度量衡	三一〇
第三項	運輸及捐金	三一二
第七款	同業組合	三一六
第一項	會館公所ノ組織	三一六
第二項	會館公所ノ規約	三一八
第五節	南京	三二五
第六節	芝罘	三二八
第一款	集散狀況	三二八
第二款	原料ノ種類及產地	三三一
第三款	製産組織	三三一
第一項	機業家ノ狀態	三三二

第二項 製織工程 三三三

第四款 種類及價格 三三四

第五款 商店ノ類別 三三五

第六款 取引慣習 三三五

第七節 各機業地ノ特色 三三六

第八節 需要ノ目的 三三七

第九節 嗜好色合及意匠 三四〇

第四章 結論 三四四

第三編 陶磁器 三五七

第一章 總說 三五七

第二章 支那ノ窯業 三六〇

第一節 窯業地 三六〇

第二節 景德鎮窯業(附官窯) 三六一

第三節 宜興燒 三六五

第四節	石灣製陶業	三六八
-----	-------	-----

第五節	廣州府ノ燒附業	三六九
-----	---------	-----

第三章	陶磁器ノ需要概況	三六九
-----	----------	-----

第一節	日本品ノ支那輸出額	三六九
-----	-----------	-----

第二節	北支那ニ於ケル狀況	三七一
-----	-----------	-----

第一款	緒言	三七一
-----	----	-----

第二款	天津ニ於ケル日本品	三七四
-----	-----------	-----

第一項	販賣店	三七四
-----	-----	-----

第二項	輸入品種	三七五
-----	------	-----

第三項	商取引	三七七
-----	-----	-----

第四項	運賃及税金	三七七
-----	-------	-----

第五項	商品陳列館	三七八
-----	-------	-----

第三款	天津ニ於ケル支那品	三七八
-----	-----------	-----

第一項	輸入品種	三七八
-----	------	-----

第二項	大小價格	三七九
-----	------	-----

第三項	模様色合	三八〇
-----	------	-----

第四項 輸入運賃……………三八一

第四款 營口、芝罘及青島ニ於ケル輸入額……………三八一

第五款 滿洲ニ於ケル日本品……………三八三

第六款 北支那輸入上ノ注意……………三八五

第三節 南支那ニ於ケル狀況……………三八六

第一款 香港ニ於ケル日本品……………三八六

第二款 厦門ニ於ケル内外品……………三八八

第三款 福州ニ於ケル内外品……………三八九

第四款 廣東及汕頭輸出入額……………三九〇

第四節 中央支那ニ於ケル狀況……………三九二

第一款 上海輸出入額……………三九二

第二款 上海ニ於ケル日本品……………三九四

第三款 上海ニ於ケル支那品……………三九五

第四款 九江ニ於ケル景德鎮磁器……………四〇二

附 日本陶磁器……………四〇三